

「海外で修行してきたらいいですよ」

情報システム研究機構 国立情報学研究所 特任研究員

田中優子 (たなか ゆうこ)

タイトルの言葉は、学位取得のめどがたったときに、恩師である京都大学教育学研究科の楠見孝先生からいただいたご助言です。それまで海外とは縁遠い生活をしてきた私にとって青天の霹靂のような出来事でしたが、これが私が海外に出ることになったきっかけです。その後、2009年3月に学位を取得してから、日本学術振興会特別研究員としてタイに1年間、ポスドク研究員としてアメリカに約3年滞在しました。

タイでは、私の研究テーマである批判的思考についてアジア文化間の比較研究を行いました。私が在籍したチュラロンコン大学は、タイで最も歴史のある高等教育機関で、東南アジア諸国を中心に多くの国から学生や研究者が来ていたため、様々な友人ができました。在泰中は、昼間は心理学部の先生や学生とタイ料理を食べながら研究の話をし、夕方は大学の寮で国や文化、専門の異なる友人と半袖にサンダル姿で熱帯フルーツを食べながら交流をするというタイならではの留学生活を送りました。

日本にいたときは研究費の削減や高学歴ワーキングプアなど暗い話をよく耳にしていたのですが、途上国に住み、日常的な停電や言論統制、不安定な政情のなかでも真摯に研究や勉学に励む人々と接していると、日本の教育・研究環境が世界的にはとても恵まれたものであることを深く実感しました。また、自分がそのような環境を十分活かしてきたのか自省させられることもありました。新米研究者

としての第一歩を踏み出したその年に、自分の研究環境を相対的に見るきっかけを得られたことは非常に貴重な経験だったと思います。

アメリカでは、スティーブンス工科大学のディビジョンテクノロジーセンターに所属しました。ここは、コンピュータ・サイエンス、経済、マネージメント、認知科学などの専門家と院生からなる学際的なセンターです。このポジションに応募したのは、これまでとは異なる観点で批判的思考について検討してみたいと思ったからです。

私の専門分野は認知心理学や教育心理学だったので、学生の間は個人の認知プロセスに焦点を当てた研究を行ってきたのですが、同センターでテクノロジーを通じて生み出される群衆 (crowds) の知性について学んでいくなかで、クラウドソーシング (crowdsourcing) による群衆としての批判的思考という発想も可能ではないかと考えるようになりました。認知プロセスを明らかにして個人ができるだけ批判的な思考者になることを検討することも教育的には重要な研究ですが、同じ共同体のクリティカルなアイデアをうまく結びつけることで、批判的思考が苦手な人々をサポートするようなシステムデザインについて検討するという研究も可能だと考えたのです。

このようなことを考えていた矢先の2011年3月に東日本大震災が起きました。このニュースはアメリカでも大きく報道され、学



Profile — 田中優子

2009年、京都大学大学院教育学研究科博士後期課程修了。同年～2010年までチュラロンコン大学に日本学術振興会特別研究員として、2010年～2013年までスティーブンス工科大学にポスドク研究員として滞在。専門は教育心理学、認知心理学、情報科学。著書は『批判的思考力を育む』(分担執筆、有斐閣)など。

内にたった二人だけの日本人である同センターの坂本康昭先生と私は、遠く離れたアメリカからでも何かできないかと話し合いました。その後、NSFの助成を受けて始めたのが群衆による批判的思考とデマ拡散行動に関する共同研究です。幸いにもこの研究結果の一部は、システム・サイエンス系の国際学会でベスト・ペーパー・アワードに選ばれ、海外で新たに挑戦した研究テーマから少しずつ芽が出ているような気がしています。

2013年1月末に帰国して、私の海外武者修行はとりあえず幕を閉じました。修行中に困ったことがあると、よく心の中で「ケセラセラ」を歌って乗り越えようとしたものですが、それも遠い思い出になりつつあります。同じ心理学の分野でも、海外留学で得るものは人それぞれだと思います。海外で得た多様な知識や経験を日本に持ち帰ることができるように、これからも多くの人が留学の機会に恵まれるよう願っています。